

## 収入がなくなった日

幕別町立札幌内中学校 3年 佐藤 柚衣

「北海道は、大変な状況だけど大丈夫？」

一本の電話がかかってきた。母の同業者からの一言だった。

私の母の仕事は習字教室の先生だ。月曜日から金曜日までフルで働き、充実した毎日を送っていた。そんな中、今年の二月、日本各地で新型コロナウイルス感染症という病気が広まり、北海道ではいち早く緊急事態宣言が発表された。学校が休校となり、外出を自粛するようになると会見が開かれた。母は自営業なので、仕事の休業中はもちろん収入がない。ここから数ヶ月、収入がなくなることはまだ想像していなかった。三週間の自粛期間が終わり、母も仕事に復帰しましたが、借りている施設では、感染拡大を防ぐため、いろいろなルールが決まり、以前より練習の回数も時間も減りそれが理由で収入が、半分になってしまった。通常の仕事へ戻ることを祈りながら四週間経ったとき、新型コロナウイルス感染者の拡大が収まらず、今度は国に緊急事態宣言が発令された。復帰できることを期待していたが、そのまま緊急事態宣言の延長が決まり、いよいよ生活に支障がでてきた。三月から五月末までほとんど収入がなくなり、仕事で支払わないといけないものは待ってもらっている状態だった。母は、この状況がいつまで続くのだろうというものすごい不安の中暮らしていた。

そんな中神奈川県に住んでいる同営業の先生から連絡がきた。母は今の状況や不安な気持ちを全て伝えた。その先生から「持続化給付金」という制度があることを教えてもらい母はその制度のことを知らなかったのですぐ調べることにした。この制度は、返済の必要がない給付金で今年一月から十二月までのいずれかの月に、売り上げが去年の半分以上減少していることが条件と書かれていた。そして自分もその対象であることが分かり、申請するだけしてみようと早速、手続きを開始した。少し諦めかけていたある日、一通のハガキが届いた。開けてみると、持続化給付金の給付を知らせるものだった。この通知のおかげで母はもちろん家族みんなの不安な気持ちが少しずつ明るくなり、家の中の重い空気が軽くなっていくことを感じた。

「税金」と聞くと、消費税が自分の一番身近にあり今までは良いイメージではなかったが、この給付金が支給されたことで、自分たちが納めた税が本当に困っている人へ届くことを知り、改めて大切なことなのだと考えが変わった。まだまだ、不安定な状況ということには変わらないが、これからも手を差しのべている多くの人に届くことを願っています。